

林 檜 停 通 信

NO.151 2015. 9. 25

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村 町田 登・幸子

暑い夏でした。皆様いかがお過ごしでしたか。こちらの日中の気温は連日35度前後ありましたが、夜はもちろんクーラーなんてものは必要ありませんでした。

さて、りんごですが、予想はしていたのですがいろいろな虫(シンクイムシ・ダニ・コガネムシ等)が異状に発生して、早生種などはほとんど満足に収穫できませんでした。やはり袋を掛けなければ無理なようです。毎年、「千秋」だけには袋を掛けないと実割れが発生して、そこから腐敗してしまうのでその作業は続けていますので虫による被害はありません。来年への労働の課題というところ。それから毎年頭を悩ませている葉ですが、雨が少なかったことと、石灰ボルドー液を2度散布したことで例年になく落葉が早期にはありません。

ぶどうですが、樹勢の弱いものほど、袋の中で干しぶどう状態になり落ちてしまった。人間だったら熱中症というところでしょう。植物は逃げることができないので、これはいたしかたないのであたりまえと受け止めた。

指標としているブルーンは何年ぶりかで良くてきたが、栗は半分虫にやられた。モモは早生種はサルにやられ、中間種は犬たちに助けられよくできた。晩生種は後半の雨続きでカビと虫の被害でほとんど落下してしまった。いずれにしても植物は素直に答えてくれますが、農薬の威力はやはりすごいものです。

乗用の草刈機が故障してしまったので、歩行用の草刈機で3日間歩き続けていた。熱さと年齢とが重なったのか頑強な男にも尿酸値のあいつがやってきた。美食家でもない私の宿敵だが、そこはつきあいの長い飲み薬で痛みはおさまった。その草刈機で生家の畑の作業をすべてやってもらっていたひと回りちがう伯母の旦那さんが病気で無理ができなくなってしまった。定年を過ぎた頃からだが、よくやっていただいていたなあと、ありがたさが身にしみています。その伯父が私鉄に勤めていて労組の活動をしていた頃なのですが、その兄さんと3人で酒を飲んだことがあった。合理化反対の声に、合理化がなんでいけないんだと兄はめずらしく激しい口調で言った。その兄は共同防除組合を脱退して個人に近い形で防除車を購入した。つまりこれは煩わしさからの合理化だったのだ。御鉢が若い私に回ってきた。村史だかの「定七騒動」を引き合いに出し、お前は代々続いている政治好きの人間になるなと警告された。政治は好きでも嫌いでもない、政治屋を嫌いなんだと口答えした。よく聞いた口癖は、早起き野球なんかやる時間があつたら、りんご畑へ行って徒長枝の一本も切れ。人は品が良くなくてはいかん。当人が品が良かったかどうかなんともいえないが、静かに本を読んでいる姿には風格があつた。そして涙もろくなって死んだ。その息子はどうかといえば、スポーツ万能でゴルフまでやっている。恩返しというかいじめみたいなものだが、人はセンスがなければと彼に言う。私のりんごが野性的だとすれば彼のりんごには品がある。きっと親父も喜んでいるだろう。昨今、小さな村にもイプセンのノラ現象が起きている。大切にしてくれよ彼女を。

伯父は湯田中温泉の片隅に居を構えている。見栄もなく飾り気もない「男はつらいよ」のひろしとさくらの家のような小さな家だ。ふたりの娘も、いかにも性格の良い顔をしているがサラリーマン家庭であり執着がないためか嫁にいった。いつだったか湯田中温泉の現状の話になった。歯が抜けるよ

うにポツリポツリと旅館が閉じられてきた。彼いわく、女性の生き血を吸って生きてきたのだから仕方ないだろう。そう、ここはその昔から遊郭街だったのです。昭和33年だったかの禁止法で除々に勢いが衰えてきたようです。

司馬遼太郎の「街道をゆく」のように行きつ戻りつしてもう少し続けてみよう。“草津よいとこ一度はおいで”の草津から白根山へ、途中差別甚だしい時代のライ病的隔離棟を横に見て、いくつもの山脈を越えて“美わしの志賀高原”に至るこの街道は、今は国道292に格上げされた。なんと、冬季オリンピックの会場となりその名も日本いや世界各地に知られた。誘致するにあたり反対運動もおきた。自然保護の権化みたいな顔をして君臨していた山小屋のオヤジは当然反対派だと思っていたが西部や土建屋さんに負けた。私は開会式の当日のデモに参加したが、遠い昔のオヤジとの語らいを思い出しながら人間の弱さをかみしめていた。

昔は荷馬車が通ればいいという道だったと思うが、俗称山賊平というところがあることを学校の遠足で知ったその道はまだアスファルトでなく埃高き道だった。今は立派な高原道路となりいくつものスキー場が点点としている。山を下りきると湯煙り湧く温泉街がある。整然とした石畳が敷かれた狭い道路の両側に旅館や土産店があり、らしさの風情は充分にある。しかし最近では下駄のカラコロカラコロという音も淋しくなったようです。とても古く当時としてはめずらしい木造三階建の大きな旅館がある。私なんぞはおそれおおく中を覗いたこともありません。先祖様は鍛冶屋さんだったとか、そう荷車の時代です。そこからもう少し下ったところに、さきほど涙もろくなった人と書きましたが、その娘が女将をやっているとても小さな旅館があります。始めから合理化のなかった宿ですが、料理だけは心のこもったおいしいものを出してくれます。(これは私からのコマーシャルです。)その左側を少し登ったところに旧草津街道という石碑がある。その下に幅5メートルくらいの急な川が流れている。大雨のときなどは流れる水の音が家の中にも聞こえるくらいだそうだが、昭和24年の春、産婆さんに死産ではないかとバケツに入れられたままその川の氾濫で流されてしまったという被害があつた。赤い着物をきせられていたから近所の人が見つけて助けてくれた。嘘みたいな話ですけどほんとうなのです。8人きょうだいの末子となればと、言葉につまります。その彼女が草津街道に続く湯街道を下りてあぶら屋に来たのです。父親は彼女が3才のとき死んでしまったが、きっと平凡でもいいから幸福になってくれるように幸子と名付けたのでしょう。数奇な運命とは言えないかもしれませんが、今は安曇野で辛抱強くバカな旦那と生きています。

湯街道とは俗称ですが、北方の殿様が温泉への遊山に通った道であり、今でも様々な昔の店の屋号で通じております。一茶も頭をひねりながら歩いたかもしれません。当然、百姓一揆の徒党の疾走もあつた。体制の中で道理や論理ばかりを追求していると、小さな人々の生き様も見えなくなるし、生命の大切ささえも見えなくなってしまうと考えるこのごろです。

赤く色づき始めたりんごに空蟬がしっかりとしがみついている。地上での短い生命に涙する人もいます。りんご園の空にはアキアカネが群舞しています。人間の怖さを知らないトンボが私の肩に何度もとまる。人間は怖いんだよ。君たちを殺すことなんか平気なんだよ。戦争をしたくてしょうがない人たちがいっぱいいるではないか。

今年の気候は平年より10日もりんごの成長を促しました。冒頭にも書きましたが、シンクイムシの多発で困惑しております。それを確認しながら箱詰めしていますが、老眼が進んだためどうしてもわからない個体もあります。御理解願うと共に、これはひどいと思われる方は対処しますので一報して下さい。

台風はどうかという不安もありますが、一年の締め括りの収穫の季節となりました。自然とのふれあいは皆様にとっていちばんいい季節ではないかと思います。安曇野にそして志賀高原へ遊びに来て下さい。お待ちしております。

しほりばたより

No.4187 15-162 11/6